

(3)リスクとニーズ&4つの壁

(犯罪を予測させる要因群) ビッグ4セントラル8
Andrewsら

- ①行動履歴 ②反社会的人格パターン
- ③反社会的認知 ④反社会的仲間関係
- ⑤家族・婚姻関係の問題状況
- ⑥学校・職場の問題 ⑦余暇活動 ⑧物質乱用

(特殊・固有の犯罪を予測させる要因群)
性犯罪や暴力犯罪等に固有な変数

(主体の側の保護因子群)

動機付け, 対処スキル, 自己効力感等

(環境面の保護因子群)

社会的サポート・資源等

36

リスク因子の種類

● 固定リスク

ほとんど変化しない。長期的な再犯予測に関連性が高い。
若年, 犯罪歴, 面識のない被害者, 保護観察中再犯歴等

● 可変・安定リスク

数ヶ月～数年持続する性格特徴等の比較的安定した要因。
治療的介入のターゲット。自己統制の弱さ, 暴力に肯定的な態度, 認知の歪み等

● 可変・急性リスク

状況に応じて数週間～数秒で変化。再発の誘因となりやすいので社会内で要注意。否定的気分, 怒り, 酩酊, 潜在的被害者への接近, 社会的サポート喪失等

37

非行に関する発達の危険因子

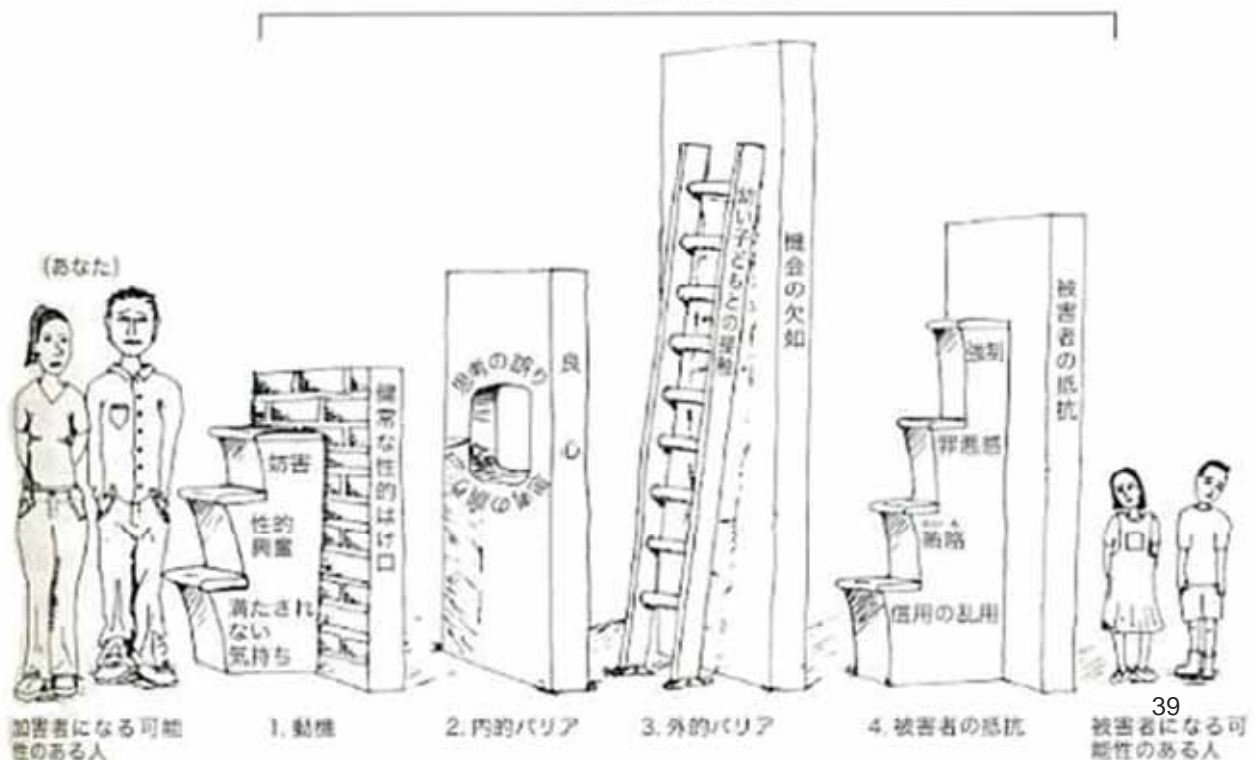
(Andrews & Bonta, 1998)

- 生得的 0～3歳
犯罪者である実父母、神経生理学的低覚醒（刺激を求める、注意障害、衝動性、多動性）
- 知能 2～7歳
言語性IQが低い／言語的スキルの乏しさ、具象的で自己中心的思考スタイル、対人認知スキルの乏しさ
- 家庭要因 0～7歳
情緒的無視：愛着の欠如、監督としつけの不足：攻撃的行動の学習
- 学校要因 5歳～思春期
学校へのコミットメント不足、成績不良、怠学・退学
- 反社会的仲間 思春期
反社会的行動に対する社会的支持、反社会的態度の学習、言い訳と合理化のスキルの学習

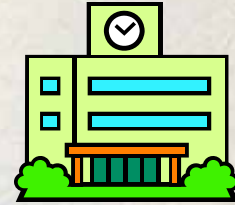
38

4つの壁を強化する

(様々な壁=バリア)



施設内処遇と社会内処遇 の一体化が再犯率低下の鍵



家
学校(職場)
関係

40

3回復のためのグループの実際



- 絆のワーク
- 認知の修正
- 感情の認識 (怒りの氷山)
- 衝動コントロール

41

反社会的認知・態度の修正

- 「思考の誤り」 (歪んだ眼鏡)
- 嘘をつかないこと
- 性加害に関するもの、非行や無責任な行動に関するもの、一般的なもの
- 内的壁をぶち抜く「思考の誤り」に気付く、修正する
- 自分のかけている「歪んだ眼鏡」は、かけていることさえ気付きにくい

42

授業中にしゃべって自分だけ怒られた

何で俺だけか？
あいつもしゃべってた

先生に言い返し、1時間くらい怒られた

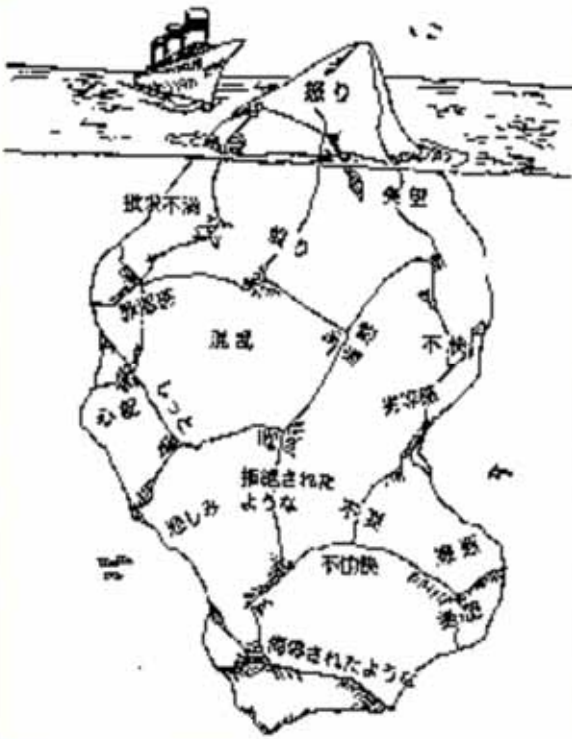
授業中にしゃべって自分だけ怒られた

人は関係ない。
自分がしゃべったのはいけないことに
変わりない。

おしゃべりをやめ、授業に集中できた

43

怒りの氷山



- イチローは17歳です。ある日彼は夜遅く帰宅しました。お母さんは「何時だと思ってるの？食べないなら電話くらいしてよ！」と言いました。イチローはすぐに腹をたて、持っていたヘルメットをふすまに投げつけ、穴を開けてしまいました。そして母親をののしり、隣の部屋に駆け込んで、ドアをすごい勢いで閉めました。後になって、その時どう感じたのかとたずねられてイチローが答えたのは、「怒りや腹立ち」を感じたということでした。

44



タートルの作戦

あるところに「タートル」という名前のカメがいました。タートルは、家族や池の仲間たちと一緒に池に住んでいました。タートルは、池で泳いだり、陸で遊んだり、日向ぼっこすることが大好きでした。タートルは、友達と遊ぶことも大好きでした。大の仲良しはカメの「鶴太郎」とカエルの「キロロ」でした。ある日のこと、タートルは年下の「カメタ」におちょくられて「しばいたるか」と思いました。

ストップ タートルはふと立ち止まって、「ちょっと待て！」と思いました。

リラックス タートルは自分のこうらの中に入りました。安心してリラックスできるからです。

考える タートルはちょっとの間考えていました。

「ぼくの考えていることは、してもよいことなのかな？」

よい・だめ

どうして？

「もしぼくが、カメタをしばいたらどうなるだろう？」

かもしれない

「かわりに何ができるかな？」

他のよいことをする タートルはさっそく

をしました。

45

情緒的に対等 適切な年齢 嘘がない 双方がいいよと言っている いやだと言ってもいい 結果を二人とも理解している どちらもしらふ 知的に対等 愛情や思いやりがある



同意に基づく関係を構成するブロック PATHWAYS (KHAN)

どれか1つでも欠けると橋は落ち、誰かが傷ついてしまいます！

46

境界線（バウンダリー）について

- 境界線とは、想像上の壁やフェンスという感じのもので、私たちを安全で、快適で、守られている感じにさせるもの。

- 身体的・物理的境界線
- 情緒的（心理的）境界線
- 社会的境界線



47

治療教育プログラム ～開始までの準備

- システム・体制作り
 - 研修・役割分担・協働体制
- 個別か、グループか？
- プログラムの目的・対象者の特性
- 参加者の募集・選定方法
- 期間、場所、リーダー
- 使用する教材（ワークブック）等

48

自己統制＋再発防止＋回復モデル

動機づけ・信頼関係作り

- 1 社会のルールと衝動コントロール
 - 反社会的認知・態度の修正
- 3 開示
 - 犯行サイクルと維持サイクル
 - 介入プランの作成
- 6 被害者の視点を学ぶ
- 7 感情とコミュニケーション能力を育成する

49

回復とは

- 被害と加害によってもたらされた悪影響を乗り越えて成長し、人生に新たな意味や目的を見出す。
- 社会の中で一定の責任を果たし、他の権利を侵害することなく、自分の可能性を伸ばす



50

雨を呼ぶ

人々が良き意図を持って集うとき、
風が魂の雲を集め、
大地に恵みの雨をもたらし、
私たち皆に...春が戻ってくる

Rainmaking

When the people gather with good intent...

Wind collects spirit clouds...

Rain falls nourishing earth...

Spring returns for all our relations...

